

日本防災士会地方議員連絡会
第3回研修会 in 護衛艦「いずも」 報告書

会場：護衛艦「いずも」艦内

日時：令和4年11月24日（木）13時～16時、18時～20時

－ 研修日程 －

13時00分 海上自衛隊横須賀地方総監部 正門前集合

13時15分 「いずも」に乗艦、格納庫内にて福田護衛艦隊司令官から歓迎の挨拶

13時30分 昇降機にて甲板に上がり、説明と集合写真撮影



護衛艦いずも乗艦記念

令和4年11月24日（木）



14時00分 多目的会議室に集合

- ① 護衛艦隊司令官福田達也海将から講話「防災と安全保障」
- ② 第1護衛艦隊群司令西山高広海将補から説明
- ③ 護衛艦「いずも」小城尚徳1等海佐から説明
質疑応答

15時00分 艦内施設見学

艦橋、士官室、幹部士官室、艦長室、食堂、手術室、医療区画
飛行指揮所、耐熱飛行甲板、風呂、トイレ等

16時00分 退艦

18時00分 意見交換会 メルキュールホテル20階宴会場

日本防災士会議連15名、
護衛艦隊司令部／福田司令官以下5名

第1護衛隊群司令部／西山群司令1名

護衛艦「いずも」／小城艦長以下4名

20時00分 閉会

議連では阪神淡路大震災、東北大震災、新潟地震、熊本地震などを経験した中で、なかなか報道では注目されていない海上自衛隊の災害支援活動に注目しました。平成23年3月に発生した東北大震災では、発災後「ひゅうが」は被災地域の近傍海域に速やかに展開し、自艦(搭載ヘリコプター4機を含む。)で行方不明者の捜索・救助を行うとともに、高い指揮通信能力を活かし、同一海域で行動する他の艦艇の指揮中枢として、その指揮機能を十分に発揮した。また、全通ヘリコプター甲板を全幅活用し、陸・海・空自および米海軍が実施する人員・物資輸送の洋上中継基地として活躍するとともに、発災直後から活動に参加した米軍との連携では、日米間の様々な調整における中核的役割を果たし、米軍による「トモダチ作戦」(被災協力活動)の円滑な実施に大きく寄与され。さらに、被災地域の住民に対し、歯科治療をはじめとする医療支援、入浴支援などの多様なニーズにも柔軟に対応していただきました。こうした経験をもとに、それ以後発生した災害に対して近傍の港に進出し被災者の救援、支援活動の重要性が認識されるようになりました。平成27年に就役した護衛艦「いずも」には、被災者の収容一時避難所機能を持ちお風呂等の生活の提供や手術室をはじめとする医療機能も備えられました。議連としては、そうした自己完結型の災害支援機能に注目し、研修を申し込んでいました。

今回の研修開催に至るまでには、日本の安全保障環境やコロナ禍に巻き込まれて3回の延期の後、やっと開催にこぎつけることができました。平成29年7月18日(火)海上自衛隊呉総監部訪問し、呉総監池太郎海将に面会して研修会の開催を依頼。平成30年5月20日(日)海上自衛隊護衛艦「かが」を訪問し、第8護衛隊群司令福田達也海将補と「かが」艦長水田英幹1等海佐にお会いして研修会を依頼。令和元年11月1日(金)防衛省自衛隊統合幕僚監部防衛計画部訪問し副部長福田達也海将と「かが」での研修会を依頼し、杉本孝幸呉総監に取り次いでいただいた。令和元年11月14日(木)海上自衛隊阪神基地隊に寺田司令を訪問して呉総監の面会予約をお願いした。令和2年2月3日(月)海上自衛隊呉総監酒井良海将を訪問し研修会の了解と日程を決定したがコロナ禍にて延期。以上の経過があり、①南シナ海出動、②北朝鮮関係の安全保障出動、③コロナ禍で3回実施が延期になり、4回目で呉基地の護衛艦「かが」から横須賀基地に所属の護衛艦「いずも」に変更して、11月22日実施で決定しましたが、11月6日国際観艦式の後、訓練に出航しており、またもや22日は佐世保から戻る途中でまだ洋上で航海中ということで、23日に帰港し24日(木)に実施ということになりましたが、それでも研修会を開催することができ感無量であります。今回の福田海将による講話「防災と安全保障」は、自衛隊が兵站機能を持ち安全保障事態に対応する能力を持っているからこそ、大災害にも対応し人命救助や避難所支援能力などあらゆる災害に対応し、国民の安全を守っていただけるのだと理解できました。

18時から開催した「意見交換会」では海自側から10名の幹部が出席していただき、

艦船の中での生活や厳しい訓練、災害出動の裏話などじっくりお話をさせていただいて楽しい時間を過ごすことができました。今回の研修会開催に当たっては、平成29年からかかわっていただけた海上自衛隊の幹部の方々、特に福田達也海将には深い感謝をささげますとともに、当日お世話をさせていただいた多くの自衛官の方々に感謝いたします。また、参加いただいた議連会員の方々、裏方に徹していただいた奥田副幹事長はじめ事務局の方々に感謝いたします。

今後も、自衛隊の災害対応能力に注目していきたいと考えています。

文責 議連会長 大石伸雄

